

女子短大生が考える 未来ストーリー

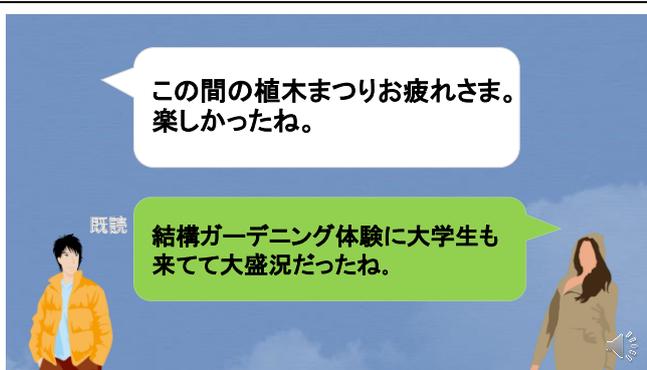
IN 稲沢

私達未来ガールズは女子短大生目線で、若い私たち世代が稲沢市をもっと好きに、もっと楽しく、もっと住みたくなる街にする、をテーマに学科学年混同の11人で活動して来ました。

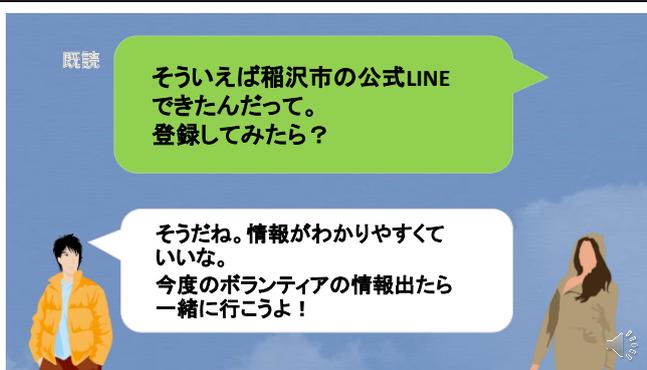
様々な意見を出し合い、私達の理想を1人1人のストーリーにしました。



あつ、ごめんなさい。
こちらこそごめんなさい。
あれ、この前の<梅まつり>のボランティアに来てなかった？
あつ、そうです。
俺も行って、君のこと見かけた気がして。今度も何かのボランティア行くの？
<植木まつり>に行く予定なんです。
え、まじ？俺も行くよ。
私、ガーデニング体験の担当です。よかったら来てくださいね。場所とか担当の時間教えて欲しいからLINE交換しよう。
いいですよ。



この間の<植木まつり>お疲れさま。楽しかったね。
結構、ガーデニング体験に大学生も来てて大盛況だったね。



そういえば、稲沢市の公式LINEができたって知ってる？登録すると稲沢市のイベントやボランティアの情報がわかるんだって。
私、登録してみたからユウキ君も登録してみたらどう？
そうだね、情報がわかりやすくていいなあ。ありがとうナオミちゃん。良かったら今度のボランティア情報が出たら一緒に行かない？
行きたいです。一緒に行きましょう。

ポイント①

LINE (SNS) の活用

若者に親しみのあるライン。

これを活用し、公式ラインを使い市のボランティア、イベント情報を発信していくことができます。

資料を配布するのにも限界があり、手に届きにくいですが、それに比べ、ラインは情報の共有がしやすいです。

たとえば既読でどのくらいの人が読んだのかわかり、情報がすぐに届きます。その点でラインを活用するべきだと思います。



【それから何度か一緒にボランティアなどに参加をし、2人は意気投合】

ナオミちゃん、一緒にボランティアに参加をして、とても楽しかったよ。これからも一緒に稲沢市のイベントやボランティアに行きたい。ナオミちゃんが好きだー！！俺と付き合ってくれ！！

はい、私でよければお願いします。

【付き合うことになりました。】



【夏には、稲沢夏祭りで花火を見ながらデートをしました。】

わー、とってもきれいだね。稲沢市って春も夏も楽しいイベントばかりだね。そうだね。秋も冬もきっと楽しいイベントがいっぱいだから一緒に行こう。



【秋には、いちょう祭りでデートをしました。】

あつちでステージが始まるみたいだから行こう。

| | |
|---|---|
| <p>ポイント②</p> <p>祭りやイベントの活性化</p> <p>ネーミングに親しみを</p> | <p>稲沢市には祭りが沢山あります。</p> <p>しかし、それを知らない人も多く、イベントに参加する世代に限られているのが現状です。</p> <p>それを解消するためにラインを活用したり、ネーミングをインパクトあるものに変えたりすると効果的になると思います。</p> <p>.</p> |
|  <p>ガーデンフェスティバル</p> | <p>例えば「植木まつり」と言ってもピンと来ない若者が多いです。</p> <p>そこで「ガーデンフェスティバル」などに名前を変えてみると印象がガラッと変わります。</p> <p>さらに体験ブースで小さくおしゃれに可愛く作れるものがあると若者も楽しめると思います。</p> |
|  <p>イメージ</p> | <p>【駅前のきれいなイルミネーションの光の中でプロポーズ】</p> <p>ナオミ、結婚しよう。</p> <p>はい、お願いします。</p> <p>2人が過ごしたこの稲沢で結婚式を挙げたいな。</p> <p>もちろん、そうしよう！</p> |
| <p>ポイント③</p> <p>街をそのまま使える</p> <p>イルミネーション</p> | <p>新しく何かを作るのではなく今ある建物や場所を使い、冬のイルミネーションをつければ、新たなスポットになり、人が集まります。</p> <p>例えば、いなっぴーのイルミネーションを作ることで、稲沢のアピールにもなり、子供達にも人気が出ます。</p> |



【国府宮神社で結婚式を挙げる】

これからも一生よろしくね。

稲沢市は子育ての制度も手厚いからここで暮らせて安心だね。

そうだね。幸せになろうね。

ポイント④

充実した 子育て支援制度の 若い世代への周知

結婚を考えたときに、一緒に子どものことも考えるとと思います。

例えば稲沢市では待機児童がゼロ、園児の主食代無料化に取り組んでいます。

このような、市の制度が充実していると知っていれば、稲沢で子育てをすることに不安がなく安心して暮らしていくことができるとと思います。

けれど、どれだけの制度がありどういふものなのかを、知らない人が多いのが現状です。

待機児童0 園児の主食代無料化

それを解決するために中高生の時から市の制度を学び制度について身近に感じられるような環境をつくることが重要だと思います。

その方法としては、例えば中学校や高校の授業の中で市の制度について学べる授業を組み込んだり、地域で子育てをするお母さんとの交流会を開くなどそういったことが効果的ではないかと考えました。

そうすることで、就職や進学のために他市に出て行ってしまっても結婚や子育てはこの稲沢でしたい！そう思えるのではないのでしょうか。

ですので、市の制度を知ってもらう機会や活動を増やしていく事が重要だと思います。



【この前、子育て支援センターで出会ったママ友から聞いた祖父江緑地公園に来ました。】

ママ、遊べるところがいっぱいあるよー！！

ほんとね。こんな公園があるなんて知らなかったわ。稲沢市は地域の人のつながりもあってたくさんの情報が得られていいわね。

そうだなあ。ここに住むことを決めてほんとによかったな。

| | |
|---|--|
| <p>ポイント⑤</p> <p>安心して暮らせる市</p> <p>家族でボランティア</p> | <p>母親は育児をする上で情報が必要になります。</p> <p>子育て支援センターに行かなくても親子で参加できるボランティア活動があれば、自然に交流することができます。</p> <p>さらに、ママ友の輪が広がり育児の情報を共有できます。</p> <p>地域ぐるみで子育てをすることで安心して暮らせる市になるのではないのでしょうか。</p> |
| <p>私たち ↓</p> <p>子ども ↓</p> <p>孫 ↓</p> <p>数年後...</p>  | <p>【稲沢市にはたくさんの手厚い制度があり、とても住みやすく、次の世代も稲沢市に住み続けました。】</p> |
| <p>まとめ</p> <p>稲沢市に住んで良かった！！</p>  | <p>まとめです。</p> <p>最後に「子育て支援」や「児童手当」などの充実した制度を知らない人が多く、それらの制度を若いうちから知っていれば稲沢市で子育てをしたい！住みたい！と思う人が増えていくと思います。</p> <p>また、私たちは、紙やメールはあまり使わず、SNS、例えばLINE、フェイスブック、ツイッターなどを使います。これらで情報発信していくと若者の目にとまりやすいです。</p> <p>資料配布だけでなく、若者が利用するSNSを通して情報を発信したり、興味を持てるようなネーミングにすることでもっと沢山のの人に稲沢の良さが伝わっていくと思います。</p> <p>そして、稲沢市の魅力に気づき、好きになると考えます。これからも稲沢市に採用していただけるような提案ができるように活動していきたいと思っています。</p> |